

## 特集

# ゆらぐ境界

## ～その先に見える世界～

境界とは、一般に「物と物、領域と領域を区切る線や場所」「ある範囲の限界や区切り」を指す。境界を設けることで、物事や領域が区分され、管理や責任の範囲も明らかになる。一方で、境界は両側の特徴を際立たせる働きも持つ。

また、境界は必ずしも一本の線として存在するとは限らず、ゆるやかな変化を伴って一定の幅を持つ場合も少なくない。国境や行政区などの人為的な境界は統治や管理の範囲を示し、流域界はもたらされる恵みやリスクを読み解く指標となる。

また、地形・地質、気候といった自然条件が形づくる境界は、人々の営みに直接影響する環境の違いを可視化する。一方、歴史や風土の中で育まれた文化や生活習慣のように、ゆるやかな幅を持つ境界は地域ごとの個性や魅力を映し出す。

このように境界は、単なる分断や対立を生む線ではなく、異なる価値観や視点が交差することにより対話が生まれ、新たな世界が広がり、育まれる“接点”ともなり得る。こうした社会経済活動や暮らしの前提となってきた境界は、これまでも、そして未来に向かってゆらぐ可能性がある。

「知っているはず」と思っていた境界は、位置が変わったり、曖昧になったりし、新たな境界が生まれることもある。本特集では、こうしたさまざまな「ゆらぐ境界」に目を向け、その先に見える世界をあらためて捉え直すきっかけとしたい。

- ①日本の北端
- ②三県境
- ③国境
- ④夜と朝の境界
- ⑤方言の境界線
- ⑥自転車専用レーン

